



SCB

ニュース&トピックス

No.2023-81

(2024. 2. 29)

信金中央金庫 地域・中小企業研究所

とね かずゆき
上席主任研究員 刀禰 和之03-5202-7671
s1000790@FacetoFace.ne.jp

信用金庫の新しいビジネスモデル策定（15）

— 営業店平日休業の実施動向 —

ポイント

- 来店客の少ない不採算・小規模店舗の維持策として、営業店平日休業の仕組みを活用する信用金庫が少しずつ増えている。
- 営業店平日休業は、大きく①単独の店舗で実施する単独休業型と、②複数店舗を交代で休業する隔日営業型に分かれる。
- 取組時の検討課題は、①対象店舗の選定、②費用対効果の検証、③職員の労務管理などがあり、実施のハードルは相応に高いと考えられる。
- 研修受講金庫の取組事例を挙げると、平日休業日は新規開拓や事務処理に専念する信用金庫、母店を中心に2つの子店を隔日営業とした信用金庫があった。

（注）本稿は、当研究所主催「経営戦略プランニング研修（2023年度）」の講義および意見交換時の内容を中心に作成している。

1. 営業店平日休業の仕組み

ここ数年、支店や出張所に平日休業を導入する信用金庫が少しずつ増えており、2024年2月現在、10金庫程度が実施中とされる。営業店平日休業は、大きく①単独店舗が実施する単独休業型と、②複数店舗を交代で休業する隔日営業型があり、更に②は①母店を中心に子店同士で実施するタイプと、②母店なしの支店同士で実施するタイプに分かれる（図表1）。①では、営業日を週4日に設定し、営業店職員は平日休業日に新規開拓や事務処理に専念するスタイルなどがある。また②では、A支店を月・水・金営業、B支店を火・木営業とし1店舗分の人員で2店舗を運営するスタイルが代表的である。

（図表1）営業店平日休業の仕組み（分類）

単 独 休 業 型	<ul style="list-style-type: none"> ●市場内の支店が当該市場の休業日に合わせて店舗を休業にしたり、特定の日（例えば月曜日）を休業にしたりするタイプである。 ●休業日は当該支店の職員全員が新規開拓や事務処理を実施するほか、本部業務などを行うケースもある（休みではない）。
隔 日 営 業 型	<p>【母店あり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●母店を中心に2つの子店が隔日営業を実施するタイプである。曜日によって母店から子店勤務の職員を派遣するイメージとなる。 <p>【母店なし】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●2つの支店が交代で隔日営業を実施するタイプである。2店舗間の移動で完結するため、仕組み的には分かりやすい。

（備考）図表1・2ともに信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

2. 隔日営業型の狙い

信用金庫は経済合理性のみで不採算店舗の統廃合を行いにくい性格を有するものの、顧客ニーズの限定的な小型・不採算店舗の維持が経営の足枷となっているのも事実である。そこで経営合理化と顧客利便性維持の両立を目指し、隔日営業を取り入れる信用金庫が出てきた。隔日営業にすれば、2店舗を1店舗分の人員で運営できるメリットがある。

3. 取組時の留意点

取組時の検討課題は、①対象店舗の選定、②費用対効果の検証、③職員の労務管理などがあり、実施に向けたハードルは相応に高いと思料される。なかでも隔日営業型の実施金庫からは職員の負荷軽減策を求める声が強く、通勤時間などへの配慮や営業店事務の標準化を進めることが重要とのことであった。また、店舗統廃合の前段階と位置付ける手もあるので、当該平日休業店舗の役割や見通しについて十分な議論が求められる。

4. 研修受講金庫の取組事例

当研修の意見交換時に聴取した研修受講金庫の主なコメントは図表2のとおりである¹。

(図表2) 営業店平日休業に関する主なコメント

- 当金庫は地元最後の金融機関であり、金融インフラの維持を考えると、なかなか店舗を閉められない。大袈裟だが最後の手段として隔日営業を取り入れた経緯があり、これで駄目なら次は店舗統廃合となる。
- 当金庫が隔日営業を取り入れた2店舗は、距離が近いものの市町村が異なるため、どちらかを閉めにくかった。
- 当金庫が平日休業を実施した店舗のエリアは、地銀も撤退しており、最後の金融機関となっていた。長い目で見れば当金庫も撤退する以外に手はないが、出来る限りは金融インフラを維持したいと考えている。
- 当金庫は、営業店平日休業を統廃合のステップと位置付けている。サテライト店にし、昼休みを入れ、平日休業を実施しても無理なら店舗統廃合する流れである。
- 当金庫は単独実施型の平日休業を導入し、休業日は当該店舗の全員で新規開拓を行っている。営業店の人員が少ないので、有効な新規開拓を行うために決断した。
- 当金庫は単独実施型の平日休業を導入し、休業日は本部のデータ整備などをさせている。近隣に隔日営業を行う店舗がなく、新規開拓するような地域でもないので、本部業務をネット上で行う。必要なら当該店舗の事務処理なども認める。
- 隔日営業の実施に合わせてATMの監視や店舗周りの清掃などを外部委託した。

本レポートは発表時点における情報提供を目的としており、文章中の意見に関する部分は執筆者個人の見解となります。したがって、投資・施策実施等についてはご自身の判断をお願いします。また、レポート掲載資料は信頼できると考える各種データに基づき作成していますが、当研究所が正確性および完全性を保証するものではありません。なお、記述されている予測または執筆者の見解は予告なしに変更することがありますのでご注意ください。

¹ 当該コメントは研修受講者の個人的な意見・感想を含むものであり、研修受講金庫の正式なコメントではない。そのため事例の記載にあたっては信用金庫名が特定できないように修正してある(信用金庫名の照会や関連資料の提供依頼にはお応えしていません)。